

Europe Trends

発表日: 2024年3月12日(火)

ポルトガル総選挙で極右が躍進

～変わる政治図、難しさを増す政権運営～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理 (Tel: 050-5474-7494)

◇ 10日のポルトガル総選挙は、極右政党シェーガが大幅に議席を伸ばし、中道左派と中道右派の両勢力が何れも過半数に届かなかった。社会民主党を中心とした中道右派が非多数派政権の樹立を目指しているが、長年の政敵である中道左派の社会党か、極端な政策を主張するシェーガの協力なしに法案成立はできない。政権運営が早晚行き詰まり、再選挙となる可能性もある。

4日付レポート「政治安定国ポルトガルにも極右の影」で指摘した通り、10日のポルトガル総選挙は、中道左派の与党・社会党（PS）と最大野党・社会民主党（PSD）を中心とした連立会派・民主アライアンス（AD）の二大勢力が大接戦となるなか、極右政党・シェーガが大幅に躍進した。開票率99.01%段階の集計結果では、社会党が改選前の120から77に議席を大幅に落とした一方、民主アライアンスが76から79に微増、シェーガが12から48と4倍増となった（図表1）。

（図表1）ポルトガル総選挙の結果

	2022年		2024年	
	得票率	議席	得票率	議席
民主アライアンス (AD)	30.89	76	29.49	79
社会党 (PS)	41.68	117	28.66	77
シェーガ (CHEGA)	7.15	12	18.06	48
リベラル・イニシアティブ (IL)	4.98	8	5.08	8
左翼ブロック (BE)	4.46	5	4.46	5
統一民主連合 (CDU)	4.39	6	3.30	4
自由 (LIVRE)	1.28	1	3.26	4
人類・動物・自然 (PAN)	1.53	1	1.93	1
海外領土	-	4	-	4
総数	-	230	-	230
投票率	57.96	-	66.23	-

注：1) 2024年は開票率99.01%段階、海外領土の4議席は集計外

2) 民主アライアンスは社会民主党（PSD）を中心とした中道右派会派

3) 2022年の海外領土選出議員のうち3名が社会党、1名が独立会派

出所：ポルトガル内務省資料より第一生命経済研究所が作成

何れの勢力も単独過半数（116議席）には届かず、それぞれの政治的な立場に近い少数政党が連立に加わったとしても、中道左派・中道右派勢力ともに100議席に満たない。選挙結果を受け、社会党のサンチェス書記長（党首）が敗北を認めた一方、PSDのモンテネグロ党首は非多数派政権の発足に意欲をみせている。レベロデソウザ大統領は12～20日にかけて主要政党党首と協議し、モンテネグロ氏に組閣を要請する公算が大きい。モンテネグロ氏はシェーガとの連立の可能性を否定しているが、主要政党との対話を模索するとしている。社会民主党内にはシェーガとの連立や閣外協力を受け入れるべきとの声も一部で浮上している。シェーガを率いるベントウーラ氏は、連立への正式な参加を要求している。新議会は3月下旬から4月上旬にかけて招集されるとみられている。

（図表2）ポルトガルの民政移管後の政権

議会	首相	最大与党	与党議席	議会定数	過半数	政権形態
1976-78	ソアレス	社会党	107	263	132	非多数派（単独）
1978	ダコスタ	社会党	149	263	132	多数派（連立）
1978-79	ピント	社会党	263	263	132	多数派（挙国一致）
1979-80	ピンタシルゴ	社会民主党	128	250	126	多数派（連立）
1980-83	カルネイロ	社会民主党	134	250	126	多数派（連立）
	パルセマン					
1983-85	ソアレス	社会党	176	250	126	多数派（大連立）
1985-87			155	250	126	多数派（連立）
1987-91	シルヴァ	社会民主党	148	250	126	多数派（単独）
1991-95			135	230	116	多数派（単独）
1995-99	グテーレス	社会党	112	230	116	非多数派（単独）
1999-2002			115			非多数派（単独）
2002-04	バローゾ	社会民主党	119	230	116	多数派（連立）
2004-05	ロペス					
2005-09	ソクラテス	社会党	121	230	116	多数派（単独）
2009-11			97			非多数派（単独）
2011-15	コエーリョ	社会民主党	132	230	116	多数派（連立）
2015			107			非多数派（連立）
2015			122			多数派（連立）
2019	コスタ	社会党	108	230	116	非多数派（単独）
2022			120			多数派（単独）

注：水色は非多数派政権

出所：ポルトガル内務省資料より第一生命経済研究所が作成

ポルトガルでは1970年代の民政移管以降、社会党を中心とした中道左派勢力と、社会民主党を中心とした中道右派勢力が交代で政権を率いてきた（図表2）。両勢力の支持が拮抗しているため、非多数派政権となることも珍しくないが、100議席未満での政権運営は2009～11年にかけての社会党ソクラテス政権以外にない。法案毎に野党の協力を求めることになるが、中道右派勢力が非多数派政権を発足した場合、シェーガが社会党の何れかの協力なしに法案を成立させることはできない。汚職撲滅、議会定数削減、国境管理の強化、不法移民に対する厳しい法的措置、反イスラム、凶悪犯罪への終身刑適用、所得税率の一本化、福祉削減、小さな政府、EUの国家介入抑制など、シェーガが掲げる政策の一部を取り込む必要が出てくる。政権運営が行き詰まり、近い将来に再選挙が必要になる可能性もある。新議会の招集から6ヶ月間と、2026年1月に予定される大統領選挙の6ヶ月前は総選挙を行うことができない。社会党と社会民主党の二大政党が大連立を組んだのは、1983～85年のソアレス政権時代に一度だけある。シェーガの影響力を排除するため、今後、二大政党が手を組む可能性が浮上してくることも考えられる。

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。